

令和5年度 第2回 北部中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和5年 11月 20日(月)14時 00分から 16時 00分
2. 開催場所 北部中学校 会議室
3. 出席委員 平間 一彦 遠藤 喜和 小林 宏彰
谷口幸子 高木早由里 佐野孝輔
4. 欠席委員 なし
5. 学校支援コーディネーター 渡邊 薫
6. 学校 佐野 政光(校長) 村松 還(教頭) 橋爪 敦志(教務主任)
平松 光宏(生徒指導主事) 鈴木 千佳(CS ディレクター)
7. 教育委員会 鈴木 陽子(教育総務課)
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 鈴木 千佳(CS ディレクター)
10. 議長の選出 平間委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
11. 協議事項
 - (1)生徒の実態とキャリア教育の在り方
 - ・生徒の様子について
 - ・キャリア教育について
 - ・北部中のキャリア教育について
12. 会議記録
 - ・司会の教頭より、委員総数 6 人全員の出席があり開催要件が満たされ、会が成立する旨の報告があった。
 - ・初めに会長より挨拶があり、続いて校長より挨拶があった。
 - 会長挨拶**→先日行われた緑翔祭(合唱コンクール)では感動をもらった。全生徒の頑張り、先生方の御尽力を感じることができた。2月には第3回の運営協議会が予定されているが、このコミュニティスクールの趣旨・意味を理解しながら勉強していきたい。
 - 校長挨拶**→緑翔祭、体育大会の2大行事が無事に終わった。子供たちはとてもいい表情をしていた。今のところ全体で予定通りの教育活動をしている。本日は参観会で大勢の保護者が来校している。
 - ・熟議に先立ち、委員の方々に 2 年生の合唱風景をご参観いただいた。

(1) 生徒の実態とキャリア教育の在り方

・生徒の様子について

委員からは以下のような発言があった。

- ・(2年生学年合唱を見て)とても感動した。一人一人が1つの目標に対して一生懸命に取り組んでいる姿はかけがえのないもの。これこそ学校教育であり、生徒のあり方だと思った。(平間委員)
- ・2年生の学年合唱はとても上手だった。先生方の指導レベルも高く、それに応えている子供たちも素晴らしいと思う。体育大会も皆がとても真剣で、一生懸命な姿が見られた。諦めない子供たちの姿は、とても清々しいと感じた。(遠藤委員)
- ・緑翔祭では、子供たちの合唱から元気で楽しそうな雰囲気を感じられた。(小林委員)
- ・未来授業では、素直で真面目な生徒が多い印象を持った。よく見てよく聞いて、よく頷いていた。普通の授業の姿勢とは違う様子がよく表情に出ている、とても有意義だった。また子供たちの合唱は、雑念がなく、ストレートに入ってきて魂が震えるようだった。(佐野委員)
- ・自分の子供が中学校を卒業し、久々に合唱を聴いた。全体を見て、男子も女子も年々うまくなっていると感じる。恥ずかしがったりせず精一杯歌っている姿にとっても感動した。(高木委員)
- ・子供が卒業して、久々に合唱を聴いた。代表生徒がハキハキと保護者へのメッセージを述べていてとてもよかった。練習もしっかりしていたのだと思う。(谷口委員)
- ・日頃から図書室で子供たちの様子や変化をよく見ていて、日々成長を感じる。合唱練習では子供たち同士が声を掛け合うなどしていた。未来授業では子供たちの表情がどんどん変わり、身を乗り出すように話を聞いている姿を見ることができた。体育大会では普段教室に入ることが難しい生徒も輝ける場所があった。これからも行事が楽しみ。(CSコーディネーター)

・キャリア教育について ・北部中のキャリア教育について

教頭よりキャリア教育についての資料説明があり、委員からは以下のような発言があった。

- ・キャリア教育というのは最近生まれた言葉だが、昔から、義務教育はキャリア教育であるべきだと考えている。社会は常に変化しているが、その時々でどのようなキャリア教育がよいのかを考えるべき。教員は、予測不能な社会をある程度予測しながら、子供たちにどのような力をつけさせればよいのかを考え、子供たちの未来につながる学びを意識するとよいと思う。こんな力があれば、こんな大人にならねば、と子供たち自身で考えられるようになるとよい。(校長)
- ・キャリア教育に関して疑問に思うことがいくつかある。
近年になってキャリア教育の必要性が高まってきた、その背景は何か。
またそのキャリア教育が求める理想像とはどのようなものか。

中学生は感情や性格が大きく変化する時期であるが、キャリア教育が間違えると大変なことになるのではないかと。今後世界を相手に競い合っていかなければならない中で、みんな「いい子」で大丈夫なのか。個性を出さねばならないのではないかと。

またキャリア教育において、地元や保護者の担うものはどれほどのものなのか、懸念している。(平間委員)

- ・20～30年前は外国の子供が少なかった。今は文化・習慣の違いがある中で、うまく理解し合いながら問題解決をしていかなければならない。そのような力を身につけること、それがキャリア教育ではないか。また予測不能な新しい課題が出てくるなかで、上からの指示で動くのではなく、自分たちで解決していく力を身につけること、これもキャリア教育では。(校長)
- ・以前、ブータンが世界一幸せな国だと紹介されたことがあった。日本人は衝撃を受け、幸せの価値観も広がったが、その頃がキャリア教育の必要性や意義の理解が高まってきた時期かもしれない。誰もが幸せを感じられるという視点を持ち、自分はどうかを考える。世界と競い合うその先で自分たちの幸せにつながる、というのが理想。(教頭)
- ・多様性や世界とのつながりを問われるようになってから、キャリア教育が謳われ始めたのではと思う。転職が珍しくない時代で、必要になるのは自分の能力。様々な選択肢があるなかで、何を選べば良いかが難しい時代であるゆえに、自分の4つの力(支える力・認める力・選ぶ力・生かす力)を身につけることが大切なのは。(生徒指導主事)
- ・キャリア教育は継続していくことがとても大切であり、子供たちだけでなく保護者や地域の人にも広げて学んでいくべき。(平間委員)
- ・先生方は日頃から本当によく取り組み、発信していると思うが、保護者へ伝わりきれていない部分があるのではと思う。学年便りは先生方の意見・意向、キャリア教育を知るにあたってより理解が深まるツールだと思うが、うまく機能しきれていないのでは、と感じる。(CSコーディネーター)
- ・良くも悪くも、まじめでおとなしい子供が多い。感じ方が麻痺しているのではないかと感じる。周りに流されないように自分軸をしっかりとっておくと良い。キャリア教育を通して、子供たちが様々な経験から何かを感じ、自分を見つけてくれることを期待する。キャリア教育を周囲に広げていくには、学校が体現していくしかない。(佐野委員)
- ・キャリア教育は個人個人を大切にするという考え方が軸になっていると思う。資料では北部中オリジナルのキャリア教育の指針が示されているが、人と人のかかわりについてもポイントが置かれているところが素晴らしい。子供たちがマイナスの感情を抱いた時にも、先生方が子供たちの気持ちを聞き、より添うことで立ち直らせることができているのではと思った。(遠藤委員)
- ・子供たちの緑翔祭の振り返りを読んで、行事を経験することで彼ら自身に主体性が出てきているように感じた。緑翔祭では本番当日まで本校職員が子供たちに「過程が大事である」という価値づけをしてくれており、そこにすごくキャリアが詰まっていたように思う。「やれ」「従う」ではなく、子供たちが主体性をもてるように育ててきているのではと思う。(校長)

- ・小学生中学生の時期というのは自己をつくるのに大事な時期なのではと思う。今は転職が当たり前の時代だが、子供たちが小・中学校の間に「自分は自分」という意識や自己肯定感を高められるよう、周りの大人が関わっていくべき。(谷口委員)
- ・北部中は以前から先生方が「自分の良さを見つけよう」「あこがれる生き方をしよう」と声掛けをしてきていた。皆さんの話を聞いて、それが今はもっと形になっているのではと思う。自己肯定感を高めることが大事。親だけではなく学校・地域もその意識をもつことでいい子がたくさん育つのではないかと思う。(高木委員)
- ・家庭での教育・あり方が大切。親がしっかり子を育て、子供がもしつぶされそうになっても、家庭で立て直して戻っていくことが大切だと思う。(小林委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

・報告

学校支援コーディネーターより以下の報告があった。

- ・11/21～22に行われる勤労体験について
- ・図書館ボランティアについて
- ・次年度に向けての教科別補助対応について

・その他の連絡事項

次回の学校運営協議会の開催日時と内容に関する補足説明、今後の学校行事予定の連絡があった。

・次回の開催日時

令和6年2月7日(水)14時00分から